

令和6年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日 時：令和6年7月1日（月）午後6時30分から午後8時00分

場 所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、野口委員、辻野委員、俵積田委員、金城委員、楠橋委員、脇委員、田草委員、末廣委員、ゆうやけの会代表者、つばさの会代表者（欠席：1名）
新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）

事務局：藤迫教育長、藪本局長、高取学校教育監、濱口担当副部長、乾人権施策室長、新井学校教育室長、赤城児童生徒指導室長、北川教職員人事室長兼教育センター所長、大上保育・幼児教育センター長

人権施策室：川田室長補佐、後藤室長補佐、田口室長補佐、大坪室長補佐

傍聴者：2名

1. 開会

（伊丹委員長）

ただいまから令和6年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会を開会いたします。

委員長を務めさせていただきます、梅花女子大学の伊丹でございます。

検討委員会の当初から、委員を引き受けさせていただいております。今年度もよろしく願っています。

本日は、前年度に引き続き、通級担当者として小学校で通級を担当されている新居教員と中学校で通級を担当されている文教員にもご参加いただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、案件1「支援教育方針の進捗について」事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 支援教育方針の進捗について

（事務局：後藤室長補佐）

○資料1、資料2に基づいて事務局から説明。

（伊丹委員長）

ご説明ありがとうございます。

資料1のグラフについては、多様な児童生徒に対する、個別最適な授業がこれからも進んでいくのではないかと感想を持ちました。支援学級が減り、通級指導教室を利用する児童生徒が逆に増えてきている状況ということですね。このあたりがやはり、ともに学ぶということを大事にする視点として、多様性を大事にすることも非常に大事なところだと思います。

まず、「1. 通級指導教室について」小学校で通級指導教室を担当されています新居教員にご意見を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

（新居教員）

ありがとうございます。まず、資料1のグラフの部分につきまして、口頭で補足させていただきます。資料1の3ページ目の部分、5月1日付の通級指導教室の利用児童生徒数が載っています。通級指導教室は、1学期末の個人懇談で話をして2学期から通級指導教室に繋がる子どもや、秋ぐらいから繋がる子どもなどもありますので、5月1日付の人数よりも増えていく実情があるということをお知りおきいただけたらと思います。

また、通級指導教室の指導についてですが、昨年度に引き続き全校に設置され、今年度はさらに複数名の教員の配置ということで、通級指導教室の担当者数が増えたことは、とても嬉しいことです。ありがとうございます。

ただ今、複数名の教員を配置していただいているのですが、一部、兼務になっており、例えば、北小学校だと2人の通級指導教室担当者がいます。1人は毎日、北小学校にいますが、2人目の先生はもう1つの学校と兼務をしており、週3日は北小学校、週2日は、兼務校という

形での勤務になっています。萱野東小学校の場合は、萱野東小学校以外に2つの学校を掛け持ちし、1人の先生が自分の学校も含めて3校を兼務している実態もあります。13人という定数のこともありますできるだけ、確実に1つの学校で2人や3人の通級指導教室担当者が兼務をせずに、その学校で勤務できるようになれば、さらに充実していいなと感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

それでは続きまして、「2. LITALICO 教育ソフト活用について」中学校で支援教育コーディネーターを担当されている脇委員にご意見を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(脇委員)

実際に昨年、LITALICO 教育ソフトのアンケートを通常学級の保護者のかたにお願いしたうえで取らせてもらいました。分析結果を見ると、学年のカラーなどが見えてきて、良いと感じる部分も、実際あります。そこから1年生に対して、3学期にどのような手立てを行い、2年生につなげていくのかを検討し、取り組みを学校で実施しました。その生徒や、学年に合わせ、どのようにSSTを行うのか、何か動画を使ってみるかなど、先生たちと話し合いながら、取り組めた部分がありました。そのうえで、今後、LITALICO 教育ソフトをさらにどのように活用していく予定なのか、教育委員会にお伺いできたらと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

今ご質問が出ましたので、今後の活用に関して、教育委員会からのご意見等ありましたらお答えいただけますか。

(事務局：後藤室長補佐)

ご質問ありがとうございます。

昨年度に引き続き今年度も第一中学校の通常学級において、LITALICO 教育ソフトのアンケートを活用いただきましてありがとうございます。

教育委員会の今後の予定ですが、現状といたしましては、あくまでもLITALICO 教育ソフトをメインで使うターゲットゾーンは、支援学級に在籍されている児童生徒や、通級指導教室を利用されている児童生徒が、今後も引き続きメインになってくるのかなと思っております。

ただ今後、数年間については、通常学級におけるLITALICO 教育ソフトの活用が有効かどうかを見極めたいと考えておまして、先日、第一中学校でもお話を聞かせていただいた際に、「学年のカラーが見えてきたことにより、有効な手立てが打てた」というお話も聞かせていただきましたので、必ず全校の通常学級で活用とするのではなく、支援学級、通級指導教室をメインにしながらも、必要に応じて通常学級でも活用していくということが今後望ましい展開ではないかなと思っております。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

それでは続きまして、「3. 研修の充実について」小学校で校長をされている辻野委員、ご意見を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(辻野委員)

教育委員会として様々な研修をしていただいて、それぞれの担当や通常学級の担任のかたも、自分が深めたいところに、主体的に研修を受けるという教員が増えていると思います。

また私は、箕面市の市教研の小学校部会の担当管理職もしておまして、市教研のほうでも、先生たちから学びたい内容についてアンケートをとり、和泉市立国府小学校の井阪先生による「自立活動にコグトレを活かすための研修」を、教員側としても主体的に研修を作っている状況です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。続きまして、「4. 支援教育専門員について」です。このように支援教育に関わる専門員を配置されてる自治体というのは、珍しいと思いますが、野口委員、全国的に見ていかがでしょうか。

(野口委員)

支援教育の担当の指導主事のかたがいらっしゃる教育委員会事務局はあると思いますが、このようにして学校に実際に訪問し、学校の先生がたと一緒に考えながら、推進されているという自治体はかなり珍しいと思います。

やはり学校で支援教育コーディネーターの先生や、支援学級の先生たちが孤軍奮闘されているような事例もあつたりする中で、このように教育委員会の先生が定期的に訪問してくださることは、すばらしい仕組みだと思います。

また、特にいいなと思ったのが特別支援学校の先生と一緒に訪問するという点です。支援学校の先生に頼むことは、結構ハードルが高いと思われる場合が多いと思います。物理的な距離も遠いですし、そもそも接点がない中で「支援学校は、センター的機能がありますよ」と言われたとしても、頼んでいいのかなという部分もあつたりすると思うので、まずは最初に、市の専門員のかたと一緒に訪問して、そこで顔合わせをすることによって、次から直接お願いしやすくなるということもあると思いましたので、非常に素晴らしい取り組みだと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。私も微力ながら様々なところでWISC-Vの研修などを実施しているのですが、日曜日にも関わらず、専門員である田口さんにお越しいただいています。また、後藤さんに関しても、事務系にもかかわらずコーディネーター研修などにも参加されておられますので、箕面市の教育委員会のかたがたは、とても熱心なかたが多いですね。

無理のない範囲で、人材をもっと専門的に配置していくということも必要なのではないかなと感じております。

その他に、ご意見を求めた委員の皆様以外にも、何かご質問等がありましたら遠慮なく挙手いただけたらと思います。

(協委員)

通級指導教室について、複数配置などを実施していただき、現在、中学校でもニーズが高まっている部分です。

ただ、今年度、第一中学校や、他校においても、ニーズが高まり、通級指導教室を利用する生徒数が増えてきているなかで、不登校や、問題行動系の生徒などの部分においても、少し受け皿になりつつある部分も見えてきています。

実際、不登校になる一つの要因として、発達課題であったり、問題行動系においても、発達課題のところがあるので、そこに向けて、どのように改善していくか、手立てを打つなかで、通級指導教室の担当の先生がとても努力されて活動されています。

ただそのニーズが増えてきている中で、第一中学校も通級指導教室の複数配置の人数に近づいている状況になり、結構、大変な激務をこなされているというのが、現状です。20名を超えてきたあたりから、やはり一人ひとりを見ていく精度が少し落ちてくる場所もあると思いますので、通級指導教室の利用者が26名を超えてから、2人目の先生が配置されるようになるというところは、少しきつと思いますので、20名以上になった場合に、複数配置していただけたら助かるなという思いです。

あと、兼務のところ、初めて通級指導教室を担当される先生もおられると思いますので、「1. 通級指導教室」の3番で記載のあるサポート体制などを構築していただけているのだと思います。自分としても立場は違いますが、通級指導教室担当者会にも行ってみたいなど興味がありますし、このような体制を今後も継続していただき、箕面市としても、今後の柱となる先生を育てていただけたらと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。ご意見、ご要望として受け、委員会としてもお考えいただけたらと思います。

(協委員)

続いて、「3. 研修の充実について」です。今年度、中学校の支援学級担任の先生がたも初めて担当される先生が多く、市教研でも、教材のレクチャーや共有を今年度から取り組み始めています。

また通常学級における生徒の支援については、授業のユニバーサルデザインなどのニーズが今後高まってくると思いますので、できれば市教研などと連携し取り組んでいただけると、若い先生が増えてる中では、ありがたいなと感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

これからの先生がたもたくさんいらっしゃいますので、研修をやはりどれだけ充実させていくかということが、私も本当に大事であるかなと感じておりますので、ご検討をよろしく願いたいと思います。事務局、お願いします。

(事務局：後藤室長補佐)

協委員、ご質問やご意見をいただきましてありがとうございます。

まず1つ目の通級指導教室につきましては、先ほど新居教員もおっしゃっていただきましたが、今年度、一部の学校の通級指導教室において、兼務配置をさせていただいています。通級指導教室は、基本的に利用する児童生徒が13人につき教員1人の配置、利用する児童生徒が26人いる場合は、2人配置となっております。今年度の策といたしまして、先ほどもご意見のありました通級指導教室の利用者が20名を超えているが、26名に達していない場合に、26人に、達するまで先生が1人だけで対応するのは、なかなか大変というところの策といたしまして、学校を2つに分けさせていただいて、兼務配置という形で、少しでも1人当たりの通級指導教室を見ていただく先生1人あたりの児童生徒数を減らしながら、より濃い指導を目指しております。

2つ目の市教研につきましても、ご意見いただきましてありがとうございます。

様々な組織があるなかで、情報共有が難しい部分もあるとは思いますが、今言っていたように、教科の部分や、現場の先生がたのニーズに応じて我々も研修を設定していくことが、一番大切だと思いますので、今求められてるニーズを聞きながら、我々のほうも今後の研修を設定していきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。他に、ご発言いただいてない委員のかたで何かご意見ご質問等ございますか。

(金城委員)

昨年度まで教育委員会として、学校にいろいろ提案する立場にいましたが、今年の4月に実際に自分が学校に来て、学校の様子を3ヶ月見ておりました。今日のテーマが支援教育方針の進捗ということですが、非常に進んでいるなというのが正直な感想です。

教育委員会が決定した支援教育方針が、現場に影響を与え、充実に繋がっているなど実感しています。

例えば、通級指導教室に関しても、やはり、本校でも非常にニーズが高いです。先ほど新居教員もおっしゃってましたが、今の時期は、保護者懇談の時期となりますが、やはりそこでもかなり希望が上がってくる状況です。

本校の中学校で通級指導教室を設置してから2年目か3年目になりますが、実際に稼働している状況を保護者が見て、「あんな感じなんだ」ということがわかって初めて、希望を上げられるという部分があるので、そういう意味では、なかなか1年目2年目では、希望が上がってこ

なかった保護者からも、今後は、もっと希望が上がってくると思いますので、通級指導教室のニーズは非常に高いというのは実感しています。全校に配置してもらってよかったですし、複数配置も、是非お願いしたいと思います。

その通級指導教室担当者の部分についてですが、本校の小学校は、新任教員にサポートで、巡回していただき、1年目の通級指導教室担当者に指導助言をしていただいているのですが、その教員が「本当に通級指導が楽しい。成果が見えてきている」と言っています。やはりそのようにサポートしていただいていることが非常にありがたいなと思っています。また、本校の校内の支援教育の研修会に、第二中学校の文教員に講演していただき、本校の学びに繋がり、非常に助かっています。

あと、LITALICO 教育ソフトについても、本校で数年間、活用していますが、すごくいい形で稼働しています。この時期に支援教育の個別の支援計画を校長として確認をしますが、やはりシステムを使っているおかげで、前年度の引き継ぎが活きるという意味では、中身もそうですし、2年目以降は負担も軽減されますし、そういった意味でも非常に活用ができています。

それから、支援学校の免許の取得費用をサポートする制度についても、本校では人気があり、複数の教員が希望している状況があります。

最後に、今回の話に出てこなかったのですが、若い教員に支援学級担任を経験させるということで、人事異動を配慮してもらえる制度につきましても、本校でも活用しています。その活用した若い教員が「支援学級担任を経験して見えるものが変わった」とすごく言っています。教員のキャリアにとって支援教育、支援学級担任をすることがとても価値あることになっているのではないかと思います、非常にいい制度であると思っています。

様々な施策が、本当に学校現場で非常に助かっているなという感想になります。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。

せっかくですからお名前が出た、文教員はいかがでしょうか。

(文教員)

先ほど新任教員がおっしゃったように、中学校の通級指導教室の利用人数は、どんどん増えてきている状態です。思春期の生徒となりますので、小学校よりも個別対応の度合いが強くなってくる部分もあります。そういう部分では、本当に複数配置ということが、必要になってくる部分は今後あると思いますが、小学校ほど急激に増えているわけではないのかなと実感として思っています。

あと、支援学級担任の先生や通級指導教室担当者の経験値がそれぞれ違う者同士で、教材研究や連携を今後は広げていき、支援学級での自立活動も充実させていき、また通級指導教室の担当者のかたも、支援学級から出た知識などを活用して、より支援教育を充実させていけたらなと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。他にご意見として俵積田校長先生、いかがでしょうか。

(俵積田委員)

私は、第二中学校で文教員に通級指導教室の担当をお願いしています。通級指導教室を利用する人数に応じて、個別対応が非常に増えてきている状況です。

中学校の場合は、小学校ほど、通常学級から支援学級に変わるケースは少なく、通常学級や支援学級から通級指導教室を利用したいというケースが多くなり、通級指導教室の利用者が20名近くなると対応が難しくなる部分もありますので、見極めが必要になってくると考えています。

第二中学校は、文教員と支援学級の教員の両名が、支援教育コーディネーターをしていただいています。しっかりと連携をして、お互いの良いところ、少し弱いところを補いながら、対応していただいています。

そのなかでいうと、支援員教育専門員の田口さんにもよく第二中学校に訪問いただき、注力いただいています。箕面支援学校や豊中支援学校の先生を3年前くらいから上手に連携いただき、年に何回か来ていただいて研修などを実施していただいております、研修テーマも年々、面白くなってきています。しかしながら、正直、人と時間が足りないという現状もあります。

複数人の生徒を対象に自立活動の授業をしていく部分については、第二中学校は、まだ不十分なところもありますが、時間割の調整も難しい状況です。

充実していく部分と先生が追いつかない状況を、どのように上手く対応していけばいいのか、今年は、特に悩んでいます。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。現場の支援教育コーディネーターとして活躍していただいている楠橋委員はいかがでしょう。

(楠橋委員)

私は、今年度、検証加配推進校である中小学校に転勤してきました。LITALICO教育ソフトの活用などがあるなかで、支援教育専門員の田口さんに、いろいろ教えていただいているので、とても助かっています。

通級指導教室担当者会のように、支援学級担任も定期的に情報交換ができる場がたくさんあればいいなと思っています。大人の人数が足りないという現状はどこも同じだと思いますので、何とかうまく回るような方法をこれからも模索していかなければいけないと感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

支援教育支援員の田草委員は、いかがでしょう。

(田草委員)

小学校で支援教育支援員として勤務しています。

支援教育専門員の学校訪問を通して見えてきた成果のなかで支援教育（看護）支援員のことを取り上げていただきありがとうございます。そのなかで、「通常学級に在籍する児童生徒に対しても積極的にサポートしている。」という記載がありますが、現状はかなり難しい状況にあります。

今は、特に小学校ではプールを自校で実施しているため、時間割がよく変更されており、変更の苦手な児童にどのようにお伝えするのか、パニックになってしまった場合の対応もあり、やはり、日常においても支援ニーズの高い支援学級在籍の児童を見ることが多いです。

ただ、通常、教室に入り込みをしているときや、休み時間で見守りをしているときなど、気になったことやトラブルがあったことを直接的に支援をしていなくても、学級担任や通級指導教室担当者に情報をお伝えしたり、対応について相談させていただいたりしています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

支援教育支援員の末廣委員は、いかがでしょう。

(末廣委員)

中学校で支援教育支援員として勤務しています。

先ほど第二中学校の俵積田校長からもお話がありましたが、教員の人数のところでは、大変な部分は実感しておりますが、本校は、校長や支援コーディネーターの先生が、学校全体に、呼びかけてくださり、学級担任の先生も授業と授業の間の忙しい時間帯に、支援学級の生徒の授業にたくさんの先生が入ってくださっています。実際入ってくださった先生が、会議の場で、「やはり実際にこうやって支援学級の授業に入ってみて、本当に大変だということがわかつ

た。学校全体で行っていく必要性がよくわかりました。」と発言してくださり、その言葉で私たちは本当に救われたと思いました。

先ほどから研修の話もありましたが、支援教育の専門的な研修も大切ですが、通常学級の教科等の先生や小学校の担任の先生などの、先生がたにもユニバーサルデザインや合理的配慮について、もっとたくさん知っていただくことで、本当に学校全体で児童生徒に必要なサポートができると思うので、そういった環境のなかで私たち支援教育支援員も微力ですが、子どもたちのために頑張っていこうと思いますので、学校の中で一緒に、子どもたちの教育携われていることはありがたく思っております。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。是非、支援教育専門員の田口さんの役割のかたが、もう1人必要ですね。よろしくをお願いします。

(伊丹委員長)

あとは、保護者会のかたにも参加いただいていますので、何かご意見お伺いしたいなと思えますが、いかがでしょうか。

(ゆうやけの会代表)

保護者としては、今回、お話を聞かせていただき、とても学校現場の先生が一生懸命頑張ってくださっていることがよくわかりました。改めてありがたいなと思って聞いていました。

私の子どもは、1年生から支援学級に入級しています。5年生になりますが、今まで、1回も「学校行きたくない」と言ったことがなく、とても学校を楽しんでいます。

通常学級の中で、当たり前前にクラスの一員として入れていただいているので、病院の先生から「本来持つてる力よりも、とても伸びてるね」と言ってもらえています。多分ちょっと背伸びをして、通常学級の中にいるので、様々なことを見たり、触れ合い、雰囲気を感じ取って、学んでいるからこそ、楽しいという感じで、学校に通わせてもらっています。

それは、環境を整えてくださっている箕面市の学校には、とても感謝していますし、やはり通常学級に入れていただいている分、先生がたに、見守りなど大変な部分もあると思えますが、そのおかげで我が子は、毎日楽しく学校に通えていますし、伸ばささせていただいています。ありがとうございます。これからも個別の様々な個性を持った子どもが多いと思えますが、一人一人の個別の実態に合った支援の方法と一緒に、保護者とともに悩みながら考えていただける先生がいてくれたら心強いなと思いつつ、今、通わせていただいています。ありがとうございます。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。子どもさんが学校で幸せに過ごせることは、素晴らしいことですね。つばさの会の代表者は、いかがでしょうか。

(つばさの会代表)

ゆうやけの会の代表者のかたも、発言されていましたが、学校現場の皆さんが、とてもよくしていただいているということがよくわかりました。

私の子どもは、抽出授業をしていただき、とても助かっていますが、支援学級に在籍している子どもの中には、抽出授業を受けたくない子どももいると思えますので、子どもにとっても難しい部分があると思えます。せつくなので、抽出授業を受けたいと思うのですが、抽出授業が嫌な子どもについては、抽出授業を受けなくてもいいということになれば、助かると思う部分もあります。学校としては、先生が増えると助かることも多いと思えますが、たくさん考えてくださり、ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございました。他に、ご意見は、いかがでしょうか。

(新居教員)

先ほど、ゆうやけの会の代表者のかたのお話にもありましたが、やはり通常学級で支援学級の子どもも学べるという意味では、研修において、集団づくりを進めていくことや、支援学級の児童生徒も含めた学級運営、集団づくりの実践報告をしていくことが改めて、大事になってくると感じています。

また研修の中で、当事者のかたの話を聞いたり、当事者の保護者のかたの話を聞いたりする研修もあると、若い先生にとっては、いいと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。インクルーシブに向けての教育が特別支援教育ですので、ともに学びともに育つという視点の中でも、まずは通常学級において、ユニバーサルデザインフォーラーニングを行うことで、すべての子どもたちが困らないようなシステムを作っていくことが非常に重要なことではないかなということを感じました。

またそれによって、通級指導教室という第3層支援の充実など、今回の進捗状況を拝見して、着実に実施していただけていると感じた次第です。

今日いただきましたご意見を踏まえて、もっともっと高めていただけたら、ありがたいなと思います。

(事務局：田口室長補佐)

先ほどの「当事者からのお話」という点につきまして、少しお伝えさせていただきます。

支援教育支援員の皆さまからリクエストもあり、今年度につきましては、当事者のかたからお話をお聞きする機会を予定しています。

今年度は、まずは支援教育支援員を対象に実施させていただき、このような機会がやはり有効であるということであれば、次年度以降に支援学級担任や通常学級担任の先生がたにも、広げていきたいと考えております。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。是非、増やしていただければと思います。その他よろしいでしょうか。なければ、案件2「その他について」事務局から何かございますでしょうか。

案件2 その他について

(事務局：後藤室長補佐)

皆さま、多くの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

皆さまからのご意見を聞かせていただき、現場での困り感の部分などについて、教育委員会として実施している部分に加えて、次は、どこに焦点を当てていくのかということが様々、見えてきます。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

案件2「その他」につきましては、次回の開催につきまして、ご案内いたします。

次回の委員会の開催につきましては、令和6年11月18日の月曜日を予定しております。

開催時刻、開催方法につきましては、今回と同様に、夜の6時半からZoomにてオンラインでの開催を予定しております。よろしく願いいたします。

3. 閉会

(伊丹委員長)

令和6年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。

皆様ありがとうございました。